

古今一如

第1号

— 糸魚川歴史民俗資料館《相馬御風記念館》だより —

発行日 平成19年3月1日
編集・発行 糸魚川歴史民俗資料館
〒941-0056 糸魚川市一の宮1-2-2
TEL・FAX 025-552-7471
URL <http://www.city.itoigawa.niigata.jp/>
e-mail bunka@city.itoigawa.niigata.jp

開館三十周年にあたり

館長 山岸 欽也

糸魚川歴史民俗資料館が昭和52年に開館し、今年で三十周年を迎えます。当館の建設計画が持ち上がって以来、今日に至るまで多くの方々からご指導やご援助をいただき、館を運営して参りました。これも、偏に皆さまのご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

当館では、市民一人ひとりが地域の歴史・文化の価値を自覚し、市民の郷土愛を喚起する機会を提供するため、相馬御風資料を中心に、収蔵展示しております。貴重な良寛資料や古美術品、また多数の文献資料——御風が生涯をかけて収集したこれらの資料は、もともと新潟県の史跡に指定されている相馬御風宅の土蔵で保管されておりました。糸魚川市では、これらの貴重な文化財を未来への財産として引き継ぐべく、当館が開館した次第です。

開館初日から十日間、無料公開された「開館一般公開展」では、四千一百人もの見学者を集め、初年度の年間入館者数は約一万五百人弱でした。その後も企画展・特別展を年に一、二回開催し、平成19年3月現在、累計入館者数が16万人を突破いたしました。館を訪れてくださるお客さまの中には、毎年、企画展を楽しみにおいでくださる方もいらっしゃいます。また、偶然訪れたら、母校の校歌の作詞者が御風であることを初めて知って驚いたという方もいらっしゃいます。こ

うしてできたお客さまとのご縁は、当館にとりまして、かけがえのない財産となっております。

また、木村秋雨翁収集資料や伴是福家文書など、毎年数多くの資料をご寄贈・ご寄託賜り、資料の充実が図られております。しかしながら、年間入館者数は減少傾向にあります。当館の努力不足も否めませんが、これは当館ばかりか、全国どこの博物館や美術館も入館者の減少に悩まされています。この原因としては、価値観の多様化に伴う趣向の変化や、博物館や美術館の数が増加し、利用者が分散化していること、開館から数年が経ち、目新しさがなくなっていることなど、様々な理由が考えられます。

少子高齢化社会が進展し、地方自治体の財政が苦しい状況にある現在、当館の入館者数を劇的に増加させることは不可能です。しかし、資料館の目的は、入館者を増やすことだけではありません。最初に述べたように、当館を訪れていただき、地域の歴史・文化の価値を再発見していただくことが、当館の使命だと考えているからです。これからの資料館は、お客さまを待っているだけではダメだと言われています。積極的に地域へ向き、その地域の歴史文化をより多くの市民の皆さまに知っていただく。そして、市民の皆さまと一緒に地域づくりに参加していくことが、今後の資料館や博物館、美術館のあるべき姿だと考えられております。

このたび、館だより「古今一如」を発行いたしました。地域の皆さまに当館の

活動をより知っていただくため、情報発信をして参りたいと存じます。今後とも、皆さまのご指導、ご鞭撻をよろしく願いたします。

資料館三十年のあゆみ

- 昭和51年8月 資料館建設工事着工
- 昭和52年6月 「糸魚川市歴史民俗資料館」オープン
- 昭和57年5月 相馬御風生誕百周年記念式典開催
- 昭和58年11月 収蔵庫・展示室増改築工事着工
- 昭和59年6月 資料館リニューアルオープン
- 平成2年3月 累計入館者数10万人を突破
- 平成12年5月 相馬御風没後五十周年記念式典開催
- 平成17年3月 一市二町合併により、「糸魚川歴史民俗資料館」に館名を変更する
- 平成17年8月 トイレ新築・収蔵庫等改築工事着工
- 平成18年2月 資料館リニューアルオープン
- 平成19年3月 館だより「古今一如」第1号発行
- 平成19年6月 資料館開館三十周年を迎える